

ひとりひとりの理想の社会のために

長野市立川中島中学校 1 年 平澤 綾

「あやちゃん……あやちゃん……」

声を絞り出すように、祖母が私の名前を呼んだ。今年五月の連休に、私は祖母に会うために東京の病院に行った。幼い頃から私を優しく見守ってくれていた祖母は、病院のベッドに寝ながら私を見つめた。私が生まれる前に祖父が難病で急逝し、祖母は徐々に体調を崩していったと母から聞いた。病を患いながらも、祖母は私に料理や裁縫を教えてくれた。けれど病状は悪化し、手術や入院を繰り返して、最も高い介護度になった。

退院後の祖母を自宅で介護するためには何が必要か、伯父と母が相談している会話を聞いているうちに、介護に税金が関係していることを知った。家族だけで介護を続けることには限界がある。伯父と母が交代で祖母を介護するとしても、介護サービスを利用しなければ難しいことがたくさんある。介護保険について調べてみると、介護を必要とする人とその家族を社会全体で支えるしくみであり、介護サービスの費用は、自己負担の他に、税金が使われているということが分かった。

近年、高齢化が急速に進んでいるというニュースをよく耳にする。私が大人になった頃には、高齢者がもっと増えているだろう。社会保障の必要性が今まで以上に高まったら、その活動を支えるために必要なお金も増えると思う。税金は、私たちの健康や生活を守るために多く使われている。私は、自分が税金を納める立場になったら、どんな目的のために、どのくらいの税金が使われているのか、自分が納めた税金が何に使われているのかを明確に知りたいと考えている。可能なことならば、自分が税金を納める分野を選べるようになったら良いと思う。どの分野が困っているのか、助けを必要としているのかを、自分でしっかり考えて納税できるとしたら、一人一人が世の中に目を向けて、どのようにお金を使ったら良いか、我が事として考えるようになるのではないかな。もし今の私が納税する立場で、納める分野を選べるとしたら、介護、福祉が最初に思い浮かぶだろう。

使い道を選択して税金を納めるというしくみの実現は難しいかもしれないが、一人一人が税について真剣に考えることが大切だと思う。自分が助けたい、より良くしたいという強い思いがあるところには、お金を使うことを惜しまないと思う。税金が何の目的のためにどのように使われているのか、税金の使い道が明確に示されること、その内容を理解しようとするものの両方が、税金のしくみを支えていくために欠かせないことだと考える。

祖母は、きっと言葉では表せない気持ちを抱えながら頑張っている。今まで祖母からもらった優しさに、今度は私が応えたいと思う。自分の家族だけでなく、助けを必要としている人達を支えられるように、社会の一員として目的意識を持って税金と向き合っていきたい。一人一人の理想の社会の実現のために。